2009」活動報告

【期間：2009年8月5日～24日】

1．はじめに

日本やアジア諸国の若者が沖縄に一堂に会し、共同生活する中、優れた科学者や技術を目の当たりにする等の共通体験等を経ることにより、将来イノベーションを起こす人材を育成することを目的とした「アジア青年の家」（主催：内閣府）の活動が8月5日から24日の約3週間の日程で行われました。

本年度のプログラムは「水」をめぐる環境問題をテーマに、その現状を知り、問題解決に向けた意欲的な取組に触れ、同時に、科学技術の素晴らしさや科学技術を社会に効果的に応用させる方法を学び、将来、自らの力で世界の人々の役に立つことを行おうとするチャンレンジ精神を育くむことを目的としております。

参加者は、国内については公募、海外については各国の関係機関からの推薦で決定した15歳から17歳の中高校生で、沖縄県14名、沖縄県以外の日本28名、アジア諸国など（ASEAN各国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア）及び中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランド）34名の総勢76名にのぼりました。

記念撮影

2．プログラムについて

プログラムは、約3週間の日程を4つのセッションに分け、県内各地の施設や自然を舞台に実施されました。

また、プログラム期間中は、異なる言語を母国語とする若者同士の交流であることから、英語を基本言語として実施されました。

なお、日本人参加者については、開会式の前々日より、2日間に亘って、事前研修を行い、英語によるコミュニケーションの練習や水問題に関する基礎知識を学び、本番に備えました。

3．主な活動

①開会式（8月5日）

沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）で開かれた開会式では、各国からの参加者が紹介され、約3週間の日程が幕を開けました。

主催者挨拶として、「プログラムを通じて、大いに語らい、刺激しあうことで、文化や国を越えた絆を深めていただくとともに、将来を見据え、自分が何をしたいのか、そのためには何をすればよいのか、考えるきっかけにしていただきたい。」との林幹雄沖縄担当大臣の期待を込めたメッセージが原田正司政策統括官より読み上げられました。

引き続き、岸本蘭さん（県立那覇国際高等学校2年）が参加青年代表として、英語で力強く抱負を述べました。

最後に、立命館アジア太平洋大学学長のモンテ・カセム氏が基調講演を行い、水が地球にもたらす恵みと災害について、自らの研究やスマトラ沖大地震の大津波で母国スリランカが被災した状況を目の当たりにした経験などを踏まえ、お話をされました。

②第1セッション（世界の水問題について）（8月5日～8月9日）

県立糸満青年の家を拠点に、枝廣淳子氏や江守正多氏による地球温暖化に関する講義、沖大幹氏による世界の水問題に関する講義や村瀬誠氏による雨水利用に関する講義などを通じて、主に資源としての「水」について、新しい知識を得るとともに、参加者同士でディスカッションを行いました。

また、首里城、平和祈念資料館の見学を通じて、沖縄の歴史についても学びました。

首里城視察

③第2セッション（海洋環境について～渡嘉敷の自然を題材に～）（8月9日～8月12日）

参加者は渡嘉敷島に渡り、海浜清掃活動を通じて漂着ゴミの実態を学ぶとともに、シュノーケリングや土屋誠氏の講義を通じて、サンゴ礁の美しさを実感し、また、その直面する問題について学習するなど、海洋環境について、多角的に考える機会

「アジア青年の家

を得ました。

また、参加者の出身地域の抱える水問題を紹介しあう発表会を行い、国・地域によって異なる水事情について、お互いの意見を交換しました。

シュノーケリング

④ホームステイ（8月13日～8月15日）

伊江島での民泊体験や農業・漁業等の体験を通じて、多様な文化、慣習を肌で感じ取りました。

また、伊江島の貴重な水源地である湧出（ワジー）の清掃活動も行いました。

湧出（ワジー）清掃活動

⑤第3セッション（淡水生態系の保全と海水の淡水化について）（8月16日～8月18日）

宜野座村のJAおきなわ教育研修所に舞台を移し、馬場繁幸氏等の指導の下、金武町のマングローブを題材に、その再生や保全について、参加者同士でディスカッションを行いました。

また、企業（東レ株式会社）の海水淡水化の取組紹介や北谷浄水場・海水淡水化センターの見学を通じ、科学技術を活用した環境問題解決に向けた取組の一例を学び、科学技術の可能性についてディスカッションを行いました。

マングローブ見学

⑥第4セッション（まとめ）（8月19日～8月24日）

プログラムも終盤を迎え、沖縄科学技術研究基盤整備機構（OIST）研究事業所を訪問し、現在開学に向けた準備が進められている沖縄科学技術大学院大学の概要説明を伺うとともに、最新の科学技術研究の一端に触れ、参加青年の好奇心を大いに刺激する機会となりました。

また、アジア青年の家構想推進に係る有識者会議座長でもある黒川清氏のイノベーションに関する講義や国際機関で活躍されている池上清子氏や村田俊一氏の講義は、参加者が自らの将来を考えるきっかけにもなりました。

また、プログラムコーディネーターである沖縄大学のチャンドララール教授の指導の下、ファシリテーターやチューターの協力を得つつ、参加者同士のディスカッションを重ね、これまで学習してきた成果を「おきなわ水環境宣言」にとりまとめる作業を進めました。

また、20日より、昨年度の参加青年の代表が一行に加わり、昨年度の経験やその経験がその後の学校生活に与えた影響などについて、本年度の参加者に伝え、交流を深めました。

⑦オープンセミナー（8月22日～8月23日）

まとめに向けた取組の一環として、「アジア青年の家2009」オープンセミナーに参加しました。本セミナーでは、半導体研究の権威として知られている西澤潤一氏や宇宙飛行士としても有名な日本科学未来館の毛利衛氏など、各界の第一人者の講義を聴講しました。

さらに、「水」をテーマにしたパネルディスカッションは、今回のテーマである「水」をめぐる環境問題について、総括する絶好の機会となりました。また、県内の大学等の多彩な展示も参加者の関心を引きました。

オープンセミナーの様子

⑧閉会式（8月24日）

万国津梁館（名護市）で開かれた閉会式において、DVDを利用した活動報告と参加者による成果報告「おきなわ水環境宣言」が発表されました。

その後、「アジア青年の家構想推進に係る有識者会議」メンバーの有馬朗人氏から、今回のプログラムの全日程を終えた参加者に対して、激励のメッセージが送られました。

4 おわりに

約3週間の日程で行われた「アジア青年の家2009」は、こうして幕を閉じました。

プログラム期間中、参加者は言葉の壁や体調管理などに苦しみましたが、それを克服し、異なった環境・文化の中で育った同年代の若者とコミュニケーションを行い、様々な考え方に触れたことは、参加者の将来にとって大きな財産となったことと思います。

最後になりましたが、「アジア青年の家2009」の実施にあたりまして、沖縄県や地元大学等からなる「アジア青年の家」沖縄推進協議会をはじめ、多くの関係機関・関係者の皆様にご尽力をいただきました。ここで紙面を借りて、御礼申し上げます。

※内閣府では、「アジア青年の家」のスケジュールや講師陣からのメッセージ、参加者による日々の活動日誌などを紹介したホームページを公開しています。
アドレスは http://ayepo.go.jp